

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証

1. 第2期総合戦略の概要

羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少、少子高齢化等の克服に向けた地方創生の取り組みを積極的に進め、住み心地の良い魅力あふれるまちの創生を図るため、平成28年3月に策定しました。

また、国において、令和4年12月に閣議決定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の内容を踏まえ、令和5年3月に第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」、「新しい人の流れと雇用を創り出す」、「いきいきと安心して暮らせる環境を整える」の3つの戦略の柱立てを行い、それぞれ重点項目を設け、その重点項目を実行するための取り組みを推進しています。また、その取り組みの実績を客観的に評価できる重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

2. 達成状況

目標値と実績を比較し、目標値への達成度を算出するものとします。

$$\text{達成度} = (\text{実績 (R6)} / \text{目標 (R7)}) \times 100$$

達成度に基づき、下表のとおり5段階の評価を行うものとします。

評価	評価基準
A	目標達成に向け、目標値を上回る進捗（達成度が100以上）
B	目標達成に向け、予定どおり進捗（達成度が90以上100未満）
C	目標達成に向け、概ね予定どおり進捗（達成度が80以上90未満）
D	目標達成に向け、改善や手段などの検討必要（達成度が70以上80未満）
E	目標達成に向け、改善や手段などを行う必要（達成度が70未満）

戦略の柱(1) 羽曳野で結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

将来の羽曳野市を創造し担っていくすべての子どもが地域の中で健やかに育ち、子育ての喜びや楽しみを感じながら安心して子どもを生み育てることができるよう、結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援を推進します。

【数値目標】

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
合計特殊出生率	1.26 (H29 数値)	1.31 (R4 数値)	1.31 (R4 数値)	1.32	B
子育てを楽しんでいる 市民の割合	63.9% (R2 数値)	67.6%	67.6% (R5 数値)	67%	A

重点項目① 結婚・妊娠・出産に対する支援

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
地域しごと支援事業受講 者数	31 人	40 人	9 人	40 人	E
マタニティスクール参加 人数	325 人	348 人	297 人	380 人	D

【重点項目達成のための取り組み例】

○地域しごと支援事業 ○妊婦健康診査・妊婦歯科健康診査の公費助成 ○マタニティスクール・マタニティ交流会の実施 ○妊産婦訪問の実施 など

重点項目② 子育てに対する支援

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
保育所待機児童数	0 人	0 人	0 人	0 人	A
留守家庭児童会待機児童 数	0 人	0 人	0 人	0 人	A
子育て情報発信媒体にお ける情報登録者数	—	410 人	654 人	4,500 人	E

【重点項目達成のための取り組み例】

○計画的な認定こども園の整備 ○留守家庭児童会の土曜開会の拡充 ○子ども医療費助成対象年齢拡充 ○多子世帯に対する保育料や学校給食費の負担軽減
○子育て世帯を包括的に支援することも家庭センターの設置 ○SNS 等を活用した情報発信 など

重点項目③ 子どもの学びに対する支援

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	72.4%	72.8%	72.3%	82.5%	C
全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好き」と答えた児童・生徒の割合	57.7%	54.5%	59.2%	66%	B
全国学力、学習状況調査において「ICT 機器は勉強の役に立つ」と答えた児童・生徒の割合	61.8%	92.4%	83.6%	67.8%	A

【重点項目達成のための取り組み例】

○スクールソーシャルワーカー、支援教育介助員の増員による児童・生徒の相談・支援体制強化 ○学校体育館へのエアコン設置 ○学校給食センターの新築移転整備
○外国語指導助手（ALT）の充実○はびきの英語ドリーム・フェスティバルの開催
○タブレット端末を活用した学習の推進 ○プログラミング教育の推進 など

重点項目④ 社会全体で子どもを支えるための環境整備

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
学校支援地域本部事業に参加しているボランティア数(延べ)	6,631 人	7,529 人	10,975 人	53,000 人	E
大学との連携による新たな事業数(累計)	9 事業	10 事業	14 事業	10 事業	A

【重点項目達成のための取り組み例】

○学校支援地域本部事業 ○親学習講座
○大学と連携した取り組み（イベントの実施（みんなであそぼ！～羽曳野市こどもまんなかイベント～）、国史跡源氏三代の墓における墓石調査 など）
○市主催事業等への学生の参画 ○インターンシップの受入れ
○大学との連携協定の締結 など

戦略の柱(2) 羽曳野に新しい人の流れと雇用を創り出す

持続可能なまちの創造と実現に向け、地域資源を活用した戦略的なプロモーションによる観光の振興を進めるとともに、様々な主体とのパートナーシップとあらゆる人材が活躍できる環境づくりを推進し、新しい人の流れと安定したしごとを創出する。

【数値目標】

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
市内就業者数	34,781 人 (R2 数値)	34,781 人 (R2 数値)	34,781 人 (R2 数値)	36,500 人	B
転入者／転出者の割合	96% (H28～R4 平均値)	96% (H28～R5 平均値)	97% (H28～R5 平均値)	100%	B

重点項目① 歴史文化や地域特有の資産を活用した観光の振興

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
はびきのビジターセンター来所者数(累計)	100 人	5,466 人	10,799 人	50,000 人	E
SNS 等による観光案内情報アクセス数(累計)	—	158,859 件	288,061 件	100,000 件	A

【重点項目達成のための取り組み例】

○はびきのビジターセンターの設置 ○「楠公さん」ゆかりの地を巡るデジタルスタンプラリーの開催 ○SNS 等を活用した情報発信 など

重点項目② 移住・定住の促進

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
移住定住サイトへのアクセス数(累計)	121,931 アクセス	138,256 アクセス	152,330 アクセス	200,000 アクセス	D
空家バンク制度登録件数	3 件	2 件	0 件	12 件	E

【重点項目達成のための取り組み例】

○移住定住サイト「はびすむ」による情報発信 ○空き家バンク制度の活用促進
○大阪府住宅建物取引業協会、民間事業者との協定締結による空家活用

重点項目③ 地域の宝の発掘・活用による地域産業の再生

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
創業支援事業補助金申請者数(累計)	8 人	11 人	15 人	15 人	A
就職支援・雇用支援の講座等受講者数	42 人	59 人	116 人	120 人	B

【重点項目達成のための取り組み例】

- 創業支援補助金事業 ○主要幹線道路沿いなどにおける企業立地の促進
○関係団体と連携した求職者と事業者のマッチングフェアの開催 など

重点項目④ 地域経済の活性化を担う地元企業や店舗等への支援

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
総事業所数	3,474 事業所 (R3 数値)	3,474 事業所 (R3 数値)	3,474 事業所 (R3 数値)	4,000 事業所	C

【重点項目達成のための取り組み例】

- 各種融資制度や助成制度による中小企業支援 ○創業支援補助金事業 など

重点項目⑤ 地域農業の活性化

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
新規就農者数(累計)	14 人	16 人	19 人	18 人	A
6次産業化による商品開発数(累計) ※市において把握している件数	1 件	1 件	4 件	3 件	A

【重点項目達成のための取り組み例】

- 農業次世代人材投資事業による新規就農者の支援 ○大阪版認定農業者支援
○大阪はびきの観光局と連携し、羽曳野市の特産品を活かした商品開発 など

戦略の柱(3) 羽曳野でいきいきと安心して暮らせる環境を整える

本市に「住み続けたい、住んでみたい」と思われる選ばれるまちをめざし、安全・安心な生活環境の充実や、戦略的な広報・プロモーションによる効果的な情報発信を行うなど、都市としての魅力向上、定住の促進、関係人口の拡大を図ります。

また、複雑・多様化する地域課題の解決に向け、民間事業者や大学等の多様な主体と連携した取り組みを推進するとともに、地域コミュニティ活動の支援を行い、地域との連携強化を図ります。

【数値目標】

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
住み続けたいと思う市民 の割合	67.8% (R2 数値)	67.8% (R2 数値)	62.9% (R6 数値)	75%	C

重点項目① 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」・日本遺産「竹内街道」の保存・活用

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
ガイダンス施設来訪者数	2,793 人	3,018 人	3,661 人	8,000 人	E
もずふる応援隊登録者数	2,040 人	2,040 人	2,052 人	3,500 人	E

【重点項目達成のための取り組み例】

- 世界遺産・日本遺産の保存と活用
- 古市古墳群保存活用計画の策定
- 歴史資産ガイダンス機能の充実
- 市ウェブサイト、SNS などを活用した魅力発信
- 関係機関と連携した事業の推進
- 歴史資産等周辺の景観の保全 など

重点項目② 交流拠点の形成

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
道の駅しらとりの郷・羽 曳野来場者数	699,998 人	720,554 人	732,253 人	110 万人	E
公共施設等への Wi-Fi 整 備箇所数	7 箇所	9 箇所	9 箇所	10 箇所	B

【重点項目達成のための取り組み例】

○道の駅しらとりの郷・羽曳野を核とした地域資源の発信 ○道の駅しらとりの郷・羽曳野、峰塚公園等の利用促進 ○恵我ノ荘駅前整備の推進 ○旧浅野家住宅の整備など

重点項目③ 安全で安心して住み続けられる持続可能なまちの実現に向けた環境整備

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
自主防災組織編成率	32%	65%	65%	65%	A
刑法犯認知件数	438 件	537 件	521 件	480 件	B

※項目「刑法犯認知件数」については、目標値を下回ることが達成度が高いことから、達成度＝（目標（R7）／実績（各年度））×100 で算出

【重点項目達成のための取り組み例】

○防犯カメラ設置補助の充実 ○横断者注意喚起灯の設置 ○高齢者への自動通話録音装置の無償貸与 ○自主防災組織の防災活動を支援する補助金制度の創設
○体験型防災イベントの開催 ○民間事業者との災害時応援協定の締結 など

重点項目④ 民間事業者や大学等の多様な主体との連携

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
包括連携協定の締結件数 (累計)	10 件	12 件	13 件	11 件	A
大学との連携による新たな事業数(累計)	9 事業	10 事業	14 事業	10 事業	A
緑と市民の協働ふれあい プラザ(エコプラザはに ふ)利用者数	4,398 人	5,435 人	4,726 人	11,740 人	E

【重点項目達成のための取り組み例】

○公民協創デスクの設置 ○民間事業者・大学等との連携協定に基づく取り組み
○市主催事業等への学生の参画（再掲） ○インターンシップの受入れ（再掲）
○市民活動への支援

重点項目⑤ シティプロモーションの推進

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
市公式ユーチューブ再生回数	357,000 回	89,000 回	189,000 回	120,000 回	A
ふるさと応援寄附の寄附額	126,517,000 円	140,198,000 円	101,700,000 円	500,000,000 円	E

【重点項目達成のための取り組み例】

○羽曳野市の魅力を紹介するプロモーション動画の制作 ○ふるさと応援寄附金返礼品の充実 など

重点項目⑥ DX の推進

項 目	R4	R5	R6	目標値 (R7)	達成 状況
高齢者向けスマートフォン教室の参加者数(累計)	244 人	361 人	809 人	500 人	A
行政手続きのオンライン化件数(累計)	41 件	44 件	49 件	50 件	B

【重点項目達成のための取り組み例】

○スマートフォン教室の開催 ○マイナンバーカードの普及促進・利活用 ○オンライン手続きの拡充 ○公金収納等のキャッシュレス化の推進 ○事務のペーパーレス化・電子化 など

3. 総括

【達成度（第2期総合戦略策定時から令和6年度）】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
A	4	10	14
B	9	6	8
C	5	6	3
D	3	3	2
E	14	12	10
合計	35	37	37

第2期総合戦略に基づき、各種取り組みを進めてきた結果、数値目標の達成状況はすべて「C」以上となり、概ね予定どおり進捗している状況です。また、個別の重点項目のKPIについては、一部において、実績の乏しいものもあるため、取り組み内容等の検証が必要と考えられますが、大半のKPIにおいて策定時からの改善や増加等が見られたことから、施策の方向性や取り組み内容については、一定の成果があったものと評価されます。

また、今後、人口減少が進行するなか、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくため、これまで実施してきた効果的な取り組みを切れ目なく進めていくとともに、国の「地方創生2.0基本構想」等を踏まえ、各取り組みの一層の充実・強化や見直しを行います。また、より適切な進行管理を行えるよう指標の見直しをすることも必要となります。